

K120.73

41

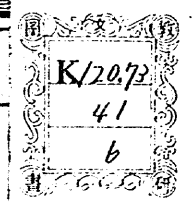
6

教育音樂講習會編纂

第六集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版



教育音樂講習會編纂

第六集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版

明治

38 5 24

丙午

新編教育唱歌集第六集目次

一 紅葉……………	一	九 故郷……………	二三
二 琵琶湖（國定讀本歌詞）……………	三	一〇 思ひ出づれば（音樂學校許可）……………	二六
三 五條の橋……………	六	一一 遠洋漁業（國定讀本歌詞）……………	二九
四 月見……………	九	一二 まとゐ……………	三一
五 風の歌……………	一一	一三 箱根山……………	三三
六 この辭書……………	一三	一四 山げしき……………	三五
七 婦人從軍行……………	一五	一五 軍港……………	三七
八 白虎隊（國定讀本歌詞）……………	二〇	一六 冬の歌……………	三九

（第六集）

一七 歲暮……………	四一	二六 戦場の月……………	六一
一八 春の歌……………	四三	二七 わがこの身……………	六三
一九 櫻……………	四五	二八 凱旋……………	六五
二〇 鶯……………	四七	二九 鏡なす（音樂學校許可）……………	六八
二一 造化のわざ……………	四九	三〇 強者強國（國定讀本歌詞）……………	七〇
二二 植物の群落……………	五一		
二三 びらみっど（國定讀本歌詞）……………	五四		
二四 紫式部……………	五七		
二五 華嚴の瀧（國定讀本歌詞）……………	五九		

目次終

(三) 神さびて

見ゆる社の垣のうちに、

ひと本てらす 森のもみぢ葉

(二) 少女が

いでて鯉よぶ 池の上に、

うつりてにほふ 庭のもみぢ葉

(一) さだめなく

しぐれて渡る 秋の雨に、

色づきにけり、 木々のもみぢ葉

紅葉

紅葉



2- 2 7 | 6-5 0 | 3 3 5 5 | 6-5 6 5 |

(一) サー ダ メ ナーカ シ グ レ テ リー タ ル
(二) なー と め ごーが いー で て こ ひ よ ぶ
(三) カー ミ サ ビーテ ミー ユ ル ヤ シ ロ ノ



3 6 6 5 3 | 2- 0 | 1 1 2 2 | 3 3 5 5 |

ア キ ノ ア メ ニー イ ロ ヅ キ ニー ケ リ
い け の う へ にー う つ り て にー ほ ふ
カ キ ノ サ チ ニー ヒ ト モ ト テー ラ ス



6- 1- | 2- 0 2 | 6- 5 3 | 2- 0 ||

キー ギー ノー モー ミー ゲー パー
にー はー のー もー みー ぢー ばー
モー リー ノー モー ミー ゲー パー

琵琶湖

琵琶湖

(一) 近江には琵琶湖とて、その名高き湖水あり。

(二) 夕日さす勢田の川、わたる汽車もこゝちよく、

(三) 石山の秋の月、雲をさまりて影清し。

(四) 栗津の松の色はえて、

(五) 晴れたる空ののどけさよ。

琵琶湖

(一) 近江には琵琶湖とて、その名高き湖水あり。

清らかなるは水の色

見れどあかねは、八つの景

(二) 夕日さす勢田の川、わたる汽車もこゝちよく、

栗津の松の色はえて、

晴れたる空ののどけさよ。

(三) 石山の秋の月、雲をさまりて影清し。

冬の來りて、さく花は、

比良のたかねの暮の雪。」

(四) 唐崎の^{からさき}一つ松、^{ひとまつ}夜の雨に^{よるあめ}名をえたり。

堅田の^{かたた}浦の浮御堂、^{うらうきみどう}

落ち来る雁のながめあり。」

(五) 三つ五つうちつれて、波の上を歸り行く

矢走の^{やはせ}沖の舟人は、^{おきふなびと}

聞きしか、三井の^{みゐ}晩鐘を。」^{ばんしやう}

五條の橋



1. 2 3. 4 5. 6 5 | 6. 6 1 7 6 5. 0 |
(一) クおがさサ (二) マふヒバハ (三) テんヨラン (四) ノのズとハ (五) チさかうベ
ザーヨろイ
ザーハふケ



3. 4 5. 5 6. 6 5 | 4. 3 2. 3 1. 0 |
サてイナワ (二) ケんデギシ (三) ヤまテナワ (四) シんサタカ (五) カぐへつギ
ニにルにニ
イーギヒミ
チのホとシ
カいさおマ



2. 2 3. 3 4. 4 5 | 2. 5 7. 6 5. 0 |
ヒよタイ (二) ルこちまジュ (三) ハとチゾー (四) ドにタハノ (五) キワマタチ
チるトラリ
一たへすギ
ツこヨコフ
ムーハさカ
レバレンリ
ドしバのシ



1. 1 1 7 6 2. 7 5 | 6. 6 7. 2 1. 0 ||
クふタマカ (二) ルえサコガ (三) レのガとミ (四) パれホあハ (五) ナたシラキ
フクバサシ
ラカクハヨ
ナカクハヨ
チはりさモ
ツしテしノ
ルフトロミ
ギカレーツ

五條の橋

- (一) 鞍馬の寺の稚兒櫻。咲けや、四海にかをるまで。
晝は讀經を勤むれど、
暮るれば習ふ、太刀つるぎ。」
- (二) 思ふ源氏の再興を 天満宮に祈らんと、
夜毎にわたる五條橋。
笛の音高く、夜はしづか。」
- (三) おもひもよらず、傍より 出でてさへぎる大法師。

太刀を給へと呼ばはれば、

太刀が欲しくば、寄りて取れ。」

- (四) さらに取らんと、うち振ふ 薙刀つひに落されて、
今ぞひたすら降参の

まことあらはす武藏坊。」

- (五) さては汝は辨慶か。牛若君にましますか。

主従の契深かりし

かがみは清し、加茂の水。」

月見

(一) くまなくてらす秋の月、みちたる影は今日一夜

波なき水に舟うけて、

空までつづく海原に

さをさゝん。

(二) 鏡のごとき今日の月、くもらぬ影もめづらしや。

わがすむ里を下にして、

海をも望む岡山に

登り見ん。

月見



| 1̣. 1̣ 1̣ 6 | 1̣- 5 5 | 3̣. 3̣ 2̣ 1̣ | 2̣- 0 |

(一) クマナク テーラス アキノツ キー

(二) かがみの ごとき けふの つきー



| 1̣. 1̣ 1̣ 6 | 1̣- 5 5 | 2̣. 2̣ 3̣ 2̣ | 1̣- 0 | 2̣. 3̣ 2̣ 1̣ |

ミチタル カーゲ ハケ フヒト ヨー ナミナキ

くもらぬ か-げ も めづらし やー わがすむ



| 6- 5 5 | 6. 5 6 1̣ | 2̣- 0 | 5̣. 5̣ 3̣ 2̣ |

ミーヅニ フネウケ テー ソラマデ

さー と な し た に し てー うみ な も



| 1̣ 3̣ 2̣- | 5̣. 5̣ 6̣ 2̣ | 1̣- 0 1̣ | 3̣. 2̣ 1̣ 7̣ | 1̣- 0 ||

ツヅクー ウナバラ ニー サ チーササ ン-

のぞむー な か や ま にー の ぼり みー ん-

風の歌



1. 2 3 1 | 3 4 5 5 | 1 7 6 5 3 | 2 2 1 -

(一) ノド カニ フキクル ハル-カゼ ウレシ-
(二) しづ かに ふきくる あき-かぜ さびし-
(三) コト ノネ シラブル マツ-カゼ ヤサシ-



1. 2 3 1 | 3 4 5 5 | 1 7 6 5 3 | 2 2 1 -

ウメ ガ カ サソ ヒ テ ヤ ナ-ギ ノ エダ ニ-
かり なく そら より は ぎ-さく の べ に-
ミ ダ ル ル ク モ ナ フ カ セ-コ コ ロ ヨ ク-



3. 3 2 2 | 1 1 7 - | 6. 6 5 1 | 2 7 1 -

ソ ヨ ソ ヨ リ タ ル- ア シ タ ノ ケ シ キ-
そ よ そ よ わ た る- ゆ ふ べ の け し き-
ソ ラ ウ ツ ナ ミ マ ク カ セ ガ モ シ ロ シ-

風の歌

(一)

のどかに吹きくる
梅が香さをひて、

春風うれし。
柳の枝に

(二)

静に吹きくる
雁なく空より、秋風さびし。
萩さく野邊に

(三)

琴の音しらぶる
乱るゝ雲おふ
天うつ浪まく
風おもしろし。
松風やさし。
風こゝろよく、

この辞書



5 5 3 4 | 5. 6 5 3 | 2 2 1 2 | 3- 0 |

(一) マナビノ マードノ アサユフ ニー
(二) せがほの きんもじ なつかし くー
(三) トーモノ ナサケヨ シノガン ヨー



1 3 5 1 | 1. 1 7 7 | 6 6 3 1 | 5- 0 |

ツクエノ カタハラ ヒザノ ウヘー
ペーじに のこれる ゆびの あとー
チカヒテ ナチナシ ミチタテ



2 2 5 2 | 3. 1 3 3 | 5 5 1 5 | 6- 0 |

ハナレヌ トモソコ ノジョ ヨー
わがしほ これよ このじしよ よー
オモヘバ タフト キコノジョ ノー



1. 1 7 6 | 5. 5 3 3 | 4 3 2. 1 | 1- 0 ||

ナレシタ シミシ イクトセ カー
なへな うけし もい たび かー
フーカ メグ ミチ アダニ ジー

この辞書

(一) まなびの窓の朝夕に、机のかたはら、膝のうへ、

はなれぬ友こそこの辞書よ。馴れ親みしも幾年か。」

(二) 背革の金文字なつかしく、ページに残れる指のあと。

わが師はこれよ。この辞書よ。教を受けしはいくたびか。」

(三) 友の情よ。師の恩よ。誓ひて名を成し、身を立てて、

思へばたふときこの辞書の 深きめぐみをあたにせじ。」

婦人從軍行

5. 5 5 5 | 1. 1 1 1 | 2 2 1. 2 | 3. 0 |

(一) ホ ツ ノ ヒ ビ キー ト ホ ザ カ ル
(二) わ き てー す こ き は て き み か た
(三) ヤ が テー シ ュー シ ノ ハ タ チ タ
(四) ま し る に ほ そ きー へ な の ベ て

3. 3 3 3 | 5. 5 3 3 | 4 3 2. 1 | 2. 0 |

ア ト ニ ハ ム シ モー コ エ タ デ ズ
ぼー ト ー と び さ リ そ で ち ぎ れ
テ ン ト サ シ テー ニ ナ ヒ ユ ク
な が る ち し はー あ ら ひ き リ

5. 5 5 5 | 3 3 1 1 | 6. 6 2 2 | 5. 0 |

フ キ タ ツ カ ゼ ハー ナ マ グ サ ク
た ふ れ し び と の か ほ ろ は ノ
テ ン ニ マ ツ ハー か ほ い モ ト
ま く やー ほ た い し ろ た へ の

1. 2 3 6 | 5. 5 3 3 | 1 3 3. 2 | 1. 0 ||

ク レ ナ キ ソ メ シ ク サ ノ イ ロ
の ベー の く さ ば に さ も た リ
ッ トー の ア イ ト ニ ム フ シ ミ
こ る し の そ ばー あ け に そ み

婦人從軍行

(一) 火筒の響遠ざかる

跡には蟲も聲たてず。

吹きたつ風はなまぐさく、

くれなゐをめし草の色。

(二) わきてすごきは敵味方、

帽子飛び去り、袖ちぎれ、

斃れし人のかほ色は

野邊の草葉にさも似たり。

(三) やがて十字の旗を立て、

天幕をさして荷ひ行く、

てんとに待つは、日の本の

仁と愛とに富む婦人。」

(四) 眞白に細き手をのべて、

流るゝ血しほ洗ひ去り、

まくや、縋帶、白妙の

衣の袖はあけにそみ。」

(五) 味方の兵の上のみか、

言も通はぬあたまでも、

いとねんごろに看護する

こゝろの色は赤十字。」

(六) あな、いさましや。文明の

母といふ名を負ひ持ちて、

いとねんごろに看護する

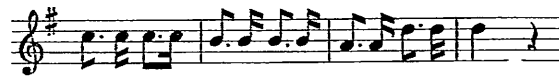
こゝろの色は赤十字。」

白 虎 隊



5. 5 1. 3 5. 5 6. 5 5. 3 4. 2 3 0

(一) ア ラ レ ノ ゴ ー ト ク ミ ダ レ ク ル
(二) み ー か た す く な く て き お ほ く
(三) ノ コ ル ハ ヲ ズ カ ニ ジ ュ ー ロ ク シ
(四) し ん し の つ と め ほ こ れ ま で そ



4. 4 4. 4 3. 3 3. 3 2. 2 5. 5 5 0

テ キ ノ ー ダ ン ガ ン ヒ キ ウ ケ テ
ひ ば くれ は て て あ め くら し
ヒ ト タ ビ ア ト ニ ー タ チ カ ヘ リ
い で い さ き よ く し す べ し と



6. 6 4. 2 5. 5 3. 3 4. 3 2. 1 2 0

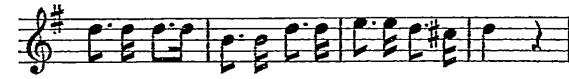
イ ノ チ テ チ リ ト ー タ タ カ ヒ シ
は ー や る ゆ ー き は た わ ま れ ド
シュ ク ノ サ イ ゴ ニ ア ハ バ ヤ ト
ま ー くら な ら べ て こ こ ろ よ く

白 虎 隊 (つづき)



5. 5 1. 1 6. 6 5 1. 1 2. 2 3 0

サン ジュ ー シ チ ノ ユ ー ショ ー ネ ン
つ か れ し み な ば い か に せ ん
イ ヒ モ リ ヤ マ ニ ヨ ゲ ノ ホ リ
や い ば に ふ し し も の が た リ



5. 5 5. 5 3. 3 5. 5 6. 6 5. 5 5 0

コ レ ゴ ー ア ヒ ズ ノ ラ ク ジョ ー ニ
た ふ る る か ば れ ー な が る る ち
ミ レ パ ー ハ ヤ ク モ シ ロ オ チ テ
つ た へ て い ま に ー び だ ん と す



5 5 1. 2 3. 3 6. 6 5. 5 5. 5 1 0

ソ ノ ナ ー キ コ エ シ ビ ッ コ タ イ
た の む ー や だ ま も つ き は て む
ホ ノ ホ ハ テ ン チ ー コ が シ タ リ
ち リ た る は な の ー か ん ば し さ

白虎隊

(一) 敵のごとくみだれ来る 敵の彈丸ひきうけて。

命を塵と戦ひし 三十七の勇少年。

これぞ會津の落城に

その名きこえし白虎隊。

(二) 味方少く、敵多く、日は暮れはてて、雨暗し。

はやる勇氣はたわまれど、疲れし身をばいかにせん。

倒るゝ屍流るゝ血。

たのむ矢玉もつきはてぬ。」

(三) 残るはわづかに十六士、一たびあとに立ち歸り、

主君の最後にあはばやと、飯盛山によちのぼり、

見れば、早くも城落ちて、

焰は天をこがしたり。」

(四) 臣子の務はこれまでぞ、いでいさぎよく死すべしと、

枕ならべて、こゝろよく 及に伏しし物語、

傳へて今に美談とす。

散りたる花のかんばし。」

故郷



1. 2 3 1 | 1 6 5 0 | 1. 6 5. 3 | 2. 3 2- |

(一) シ ガ フ ル サ ト ノ ユ カ シ キ コ カ ゲー
(二) わ が ふ る さ と の ゆ か し き か き れー
(三) ヲ が フ ル サ ト ノ ユ カ シ キ ハ タ ケー
(四) わ が ふ る さ と の ゆ か し き な か ベー



1. 2 3 1 | 1 6 5- | 1. 6 5. 3 | 2 1 2 3 1- |

ム カ シ マ イ マ ハ タ レ ト カ ター ラー ン
つ ぼ み や も し て う 点 の つー つー じー
コ ト シ モ ム ギ ハー タ ケ ニ ヤ ノー ビー シー
と だ ち つ れ て あ け くれ のー ぼー リー



1. 2 1 7 | 6 1 5 0 | 1. 6 5 2 | 3. 1 5 0 |

イ モ ト ト モ ニ コ シ ウ チ カ ケ テ
ア コ ン ト ト め テ コ ヲ ヲ カ タ テ リ
お き ゆ ね の し ら ぼ な み て は



1. 2 1 7 | 6 1 5 0 | 1 2 3 1 | 2 2 1- ||

タ ウ エ チ ミ シ モ ソ キ ノ カ ゲ ヨー
ヤ ヨ ビ の ぼ り タ ひ る の は ソ れ コー
ヒ リ カ と い たい キ ハ ソ コー
と リ け ば こ へ

故郷

(一)

わが故郷のゆかしき木蔭。むかしを今は誰と語らむ。
妹と共に腰うちかけて、田植を見しも、その木の蔭よ。」

(二)

わが故郷のゆかしき垣ね。荅やもちし、手植のつゝじ。
心をこめてつちかひ立てし、やよひの春の錦は、それよ。」

(三)

わが故郷のゆかしき畑。今年も麦は丈にやのびし。
青麦ぬきて、笛をもつくり、雲雀の歌をきゝしは、そこよ。」

(四)

わが故郷のゆかしき岡邊。友だちつれて、あけくれのぼり、
沖ゆく舟の白帆をみては、鳥かといひし處は、そこよ。」

思ひ出づれば

5 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |

(一) ア モー ヒ イ ツ レ - - バ -
 (二) あ し た に な れ - - ば -
 (三) ユ フ ベ ニ ナ レ - - バ -
 (四) あ し た に な れ - - ば -

2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 2- |

ミ ト セ ノ ム カ - - シ -
 か ど お し ひ ら - - き -
 ト コ ヲ サ ハ ラ - - ヒ -
 か ど お し ひ ら - - き -

3 2 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |

ソ カ レ シ ツ ノ - - ヒ -
 ひ か す よ み つ - - つ -
 オ ヨ ビ サ リ ツ - - ツ -
 ヲ フ ベ に な れ - - ば -

2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 1- |

リ ガ チ チ ハ ハ ノ -
 ち ち ま ち ま さ - - ん -
 ハ ハ マ チ マ サ - - ん -
 と ハ う ち ば ら - - ひ -

思ひ出づれば (つづき)

3 | 5- 6 | 5 3 1 | 5- 6 | 5 3 |

カ シ ラ ナ デ ツ - - ツ -
 わ が お も ひ ご - - ば -
 ソ ガ ま モ ヒ ゴ - - ハ -
 ち ち ま ち ま さ - - ん -

1 | 5 3 1 | 5 3 1 | 6 5 3 | 2- |

マ サ キ ク ア レ - - ト -
 こ と な し ば て - - て -
 コ ト ナ シ ハ テ - - テ -
 は は ま ち ま さ - - ん -

3 2 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |

イ ヒ シ オ モ リ - - ノ -
 は や い つ し か - - し -
 ハ ヤ イ ツ シ カ - - モ -
 は や く か へ ら - - ん -

2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 1- |

シ タ ハ シ キ カ - - ナ -
 か へ ハ リ ニ な ん - - と -
 カ へ の コ ナ ん - - ト -
 も と の く に ベ - - に -

思ひ出づれば

(一) おもひ出づれば、三年の昔

わかれしその日、わが父母の、

頭なでつゝ、眞幸くあれと、

いひしおもわの 慕はしきかな。」

(二) 朝になれば、門おし開き、

日數よみつゝ、父まちなさん。

わがおもひ子は ことなしはてて、

はやいつしかも 歸り來なんと。」

(第六集)

(第六集)

(三) 夕になれば、床うちほらひ、

およびをりつゝ、母まちなさん。

わがおもひ子は ことなしはてて、

はやいつしかも かへりこなんと。」

(四) あしたになれば、かどおしひらき、

ゆふべになれば、床うちほらひ、

父まちなさん。母まちなさん。

早く歸らん、もとの國べに。」

遠洋漁業

(一) 日本男子と生れては、富國の道をはかるべし。
 (二) 海に無盡の富ありて、波路に行かれぬ所なし。
 (三) 怒れる波は高くとも、吹きまく風はあらくとも、
 (四) 北に南に漕ぎ出でて、すなだるわざも國のため。
 危き道をおかさずば、勝利し功は立てられし。
 島かげ見えぬ所まで、漕げや家なるわが舟を。
 種々の寶は海にあり。取れど、捨てどつきもせじ。
 思へや、獲物うち積みて、歸る波路の愉快さを。

遠洋漁業

(一) 日本男子と生れては、富國の道をはかるべし。
 (二) 海に無盡の富ありて、波路に行かれぬ所なし。
 (三) 怒れる波は高くとも、吹きまく風はあらくとも、
 (四) 北に南に漕ぎ出でて、すなだるわざも國のため。
 危き道をおかさずば、勝利し功は立てられし。
 島かげ見えぬ所まで、漕げや家なるわが舟を。
 種々の寶は海にあり。取れど、捨てどつきもせじ。
 思へや、獲物うち積みて、歸る波路の愉快さを。



| 1̇ 7̇ 6̇ 5̇ 3̇ | 5̇ 4̇ 3̇ 2̇- | 1̇ 7̇ 1̇ 3̇ 2̇ 1̇ |

- (一) タ ノー シ キ ハ ルー ノー カ カーン ノー
 (二) た のー し き な つー のー じゅいのー
 (三) タ ノー シ キ ア キー ノー ダーッ カノー
 (四) た のー し き ふ けー のー る へんのー



| 7̇ 1̇ 2̇ 3̇ 2̇ 5̇ | 1̇ 7̇ 6̇ 5̇ 3̇ | 5̇ 4̇ 3̇ 2̇- |

- マートキー カター ミニ カター ルー
 まーとーぬー かたー みに ちぎー るー
 マートキー タガー ヒニ シノー プー
 まーとーぬー たがー ひに はげー むー



| 1̇ 7̇ 1̇ 3̇ 2̇ 1̇ | 7̇ 2̇ 1̇- ||

- ユクー テ ノー ノ ソー ミー
 か はー ら ぬー よ し みる
 ス ギー ツ ルー ム カ シー
 よ にー た つー つ と めー

ま
と
ね

(一) たのしき春の花間のまね。

(二) たのしき夏の樹蔭のまね。
 かたみに かる ゆくての望。

(三) たのしき秋の月下のまね。
 かたみに ちぎる かはらぬ誼。

(四) たのしき冬の爐邊のまね。
 たがひに しのぶ 過ぎつる昔。
 たがひに げむ 世に立つ勤。

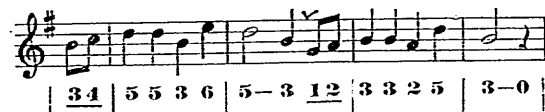
箱根山



(一) サガミスルガートイゾクニニ
(二) セキシなおきてやまこすひーと
(三) コノヤマナカニカガミノーゾー
(四) タビゆくひとーもいとまあーらば



マタガリタテールハコネノヤマー
しべしこーとーもいこまほむかし
キヨクタヘールアシノコイ
はこれのななーゆあみめぐり



ハチリノサカートヨニキコエシ
ゆふぐれさむーくあらしふき
カーズミノマヨーリカーゲチヒタ
ふーくかぜきよーきまーどのしとに



トコハココーゾコノミヤマゾ
すきのししたみーちカシマ
サカサベノフミヤコノアオモシ
むすべのサベミヤコノアオモシ

箱根山

(一)

相模駿河と伊豆の國に

(二)

八里の坂と世にきこえし

(三)

關所をおきて、山こす人

(四)

夕ぐれさむく嵐ふきて、

霞のまより影をひたす

箱根山

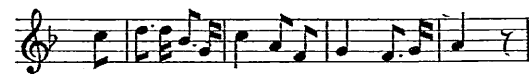
三四

山げしき



1 | 3.2 1.7 | 1.2 3.1 | 5 5.6 | 5 0 |

(一) コ ズエ ニセ ミーノ コ エ タ エ テ
(二) は つた けや まーに わ け い れ ば
(三) イ ネ カ ル ヒ トーハ タ ニ イ デ テ
(四) た ち ま ち の きーに お と す る は



5 | 6.6 1.2 | 5 3 1 | 2 1.2 | 3 0 |

ハ ヤ サ キ イ ズ ル ノ ベ ノ ハ ナ
い ろ づ き そ め し ほ や し に は
ハ タ ラ ク サ マ ノ イ ソ ガ シ サ
あ ら し に あ め か も み ち ば か



5 | 6.6 1.2 | 5 3 1 | 2 2.3 | 1 0 ||

ア キ ハ ギ キ キ ヨーサ ミ ナ ヘ シ
め じ る の ノ カ ダ ノ キ ユ ナ え ひ リ
ユ フ ヒ コ カ ノ キ ユ ル マ デ
ひ る ヘ や に は の お ち ゃ な

山げしき

(一) 梢に蟬の聲たえて、

(二) 早さきいづる野邊の花、秋萩、桔梗、をみなへし。
初茸山に分け入れば、

(三) 色づきそめし林には、目白の聲もきこえけり。
稻かる人は田にいでて、

(四) はたらく様のいそがしさ。夕日の影の消ゆるまで。
たちまち檐に音するは、
嵐に雨かもみちげか。拾へや庭のおち栗を。

軍 港

- (一) 山^{やま}なす軍艦^{ぐんかん}波^{なみ}間^まにならび、

ひらめく國^{くに}旗^きは嵐^{あらし}になびく。

見^みよ。見^みよ。雄々^{たけな}しきわが軍港^{ぐんこう}を。」

(二) いづれも名譽^{めいよ}の歴史^{れきし}に富^とみて、

出^いで入^いる船渠^{せんきょ}の備^{そなへ}も足^たれり。

これこそみ國^{くに}の守^{まもり}のみなと。」

(三) 世界^{せかい}にきこゆるわが海軍^{かいぐん}の

光^{ひかり}は朝日^{あさひ}とかがやきわたる。

國^{くに}民^{たみ}祝^{いは}ひて、頼^{たの}めや。たのめ。」

軍 港



5 3 1 5 | 3. 2 1 5 | 6 5 1 2 | 3 1 2 - |

- (一) ヤマナス グンカン ナミマニ ナラビー
 (二) いづれも めいよの れきしに とみてー
 (三) セカイニ キコユル ソガカイ グンノー



5 3 1 5 | 3. 2 1 7 | 1 7 6 7 1 | 7 6 5 - |

ヒラメク コッキハ アラシニ ナビケー
 いでいる どっくの そなへも たれりー
 ヒカリハ アサヒト カガヤキー ツタルー



2. 2 7 5 | 3. 2 1 6 | 4 3 2 1 | 1 7 1 - |

ミヨミヨ チチシキ ソガグン コーチー
 これこそ みくにの まもりの みなとー
 コグミン イハヒテ タノメヤ タノメー

冬の歌

(一) カレノニターテルヒトツマツー
 (二) コスミをみみさをくらぶ色と香と
 (三) フリシキツモルケサノユキー

カキツネニノコルキクノハナー
 しづめをみみさをくらぶ色と香と
 サキソメイザルフエノウメー

ミサチチーグラブーイロトカトー
 しぐれしーしみちーそめわけぬー
 カニコソハナトーシラレケレー

ミサチチーグラブーイロトカトー
 しぐれしーしみちーそめわけぬー
 カニコソハナトーシラレケレー

(第六集)

冬の歌

(第六集)

(一) 枯野に立てる一つ松、垣根に残る菊の花、

(二) こずゑを見れば色深し。下枝を見れば色浅し。

(三) 降りしき積る今朝の雪。咲きそめいづる冬の梅、

香にこそ花と知られけれ。

香にこそ花と知られけれ。

歳暮

(一) 雪^{ゆき}こぼれて、嵐^{あらし}さむく、

ことしもはや暮^くれにけり。

春^{はる}のさくら、秋^{あき}のもみぢ、

ただ夢^{ゆめ}のこゝちして。」

(二) かへり見^みれば、今年^{ことし}の内^{うち}、

すゝみし業^{わざ}いくばくぞ。

望^{のぞみ}おほき春^{はる}は前^{まへ}に

まれきつゝ、たてるなり。」

歳暮



(一) ユ キー コボ レー テ ア ラ シ サ ム ク -
(二) か ヘー リ ミ レー バ コ ト シ ノ ウ チ -
コ ト シ モ ハ ヤ ク レ ニ ケー リー
スー ミ シ ワー ザ イ ク バ クー ゾー
ハ ミー ノ サ クー ラ ア キ ノ モー ミ デー
の ゾー ミ オ ほー き ば る ば まー へ にー
タ ダ ユー メー ノ コ コ チ シー テー
ま れー きー つー つ た て る なー リー

春の歌

5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 4 | 5. 5 0 |
 (一) イ ケ ニ コ ホ リ ノ ア ト キ エ テー
 (二) に ほ ふ あ さ ひ の か げー う け てー
 5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 2 | 1. 1 0 |
 ウ チ ノ ヒ レ フ リ ユ ター カ ナ リー
 に ほ に ほ の こ る ゆ きー も な くー
 2 | 2. 3 2 2 3 | 3. 4 3 3 4 | 6. 4 3 2 | 3. 3 0 |
 ナ ギー サ ノ ア シーモツ ノ ケー ミ テー
 は れー う ち の ばーし と ぶ とー び のー
 3 | 3 2 1 7 | 1 2 3 5 | 1. 2 3 4 5 6 | 5. 5 0 |
 ナ ツ サ フ チ シーノユ メーゴコ ロー
 こ 点ー も か す め る お はーぞら はー
 5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 2 | 1. 1 0 ||
 イ マ ハ ノ ド カ ニ ナ リーヌラ シー
 は る の み ど り な つ つーむか なー

春の歌

(一) 池に氷のあと消えて、魚の鰭ふりゆたかなり。

なぎさの蘆もつのぐみて、
なづさふ鴛鴦の夢ごころ

(二) 句ふ朝日のかげ受けて、庭には残る雪もなく、
今長閑になりぬらし。

羽うち伸ばし飛ぶ鳶の
聲もかすめる大ぞらは、

春のみどりを包むかな。

櫻

3. 3 5 5 | 3. 6 5- | 3. 2 1 3 | 2- 0 |

(一) ヨ シ ノ ノ ヤ マ ナー ミ ソ タ セ パー
(二) ふ げ ど も か ぜ はー し づ か な るー
(三) チ ル ベ キ ト キ ニー チ リ テ コ ソー

3. 4 5 5 | 6. 5 6 1 | 2 3 2 7 | 1- 0 |

サー ク ラ ナ ラ ザ ル カ タ モ ナ シー
わ が ひ の しー と の は る の そ らー
アー シ ハ ホ マ レ ノ ハ ナ モ サ ケー

1. 2 3 3 | 2 1 6 5 | 6. 5 3 1 3 | 2- 0 |

ヤーマトゴコロノハナザカーリー
はー な か か す み か し ら ゆ きー かー
ヤーマトゴコロチアラハシーテー

3. 4 5 5 | 6. 5 6 1 | 3. 2 1 6 7 | 1- 0 ||

アフケヤイキョーノヒトビトモー
あさひのひかりはちさとまーでー
ニホフカヨシノノヤマザクラ

櫻

- (一) 吉野の山を見渡せば、櫻ならざるかたもなし。
やまと心の花ざかり、仰げや異郷の人々も。
- (二) 吹けども風は静なる わが日の本の春の空。
花か霞か。白雪か。朝日の光は千里まで。
- (三) 散るべき時に散りてこそ、武士は譽の花も咲け。
大和心をあらはして、にほふか、吉野の山櫻。

鶯

(一) さかりに句^{にほ}ふわがすむ宿^{やど}の 檐端^{のきば}の梅^{うめ}の色^{いろ}香^かをしたひ、

なく鶯^{うぐひす}のその聲^{こゑ}のよさ、 けさも朝^{あさ}日のさしいでしより。」

(二) 雲^{くも}か^みと見^みゆるわがやの門^{かど}の 櫻^{さくら}の枝^{えだ}に飛^とびうつり來^きて、

なく鶯^{うぐひす}のその愛^{あい}らしさ、 けふも夕^{ゆふ}日のさし入^いりしまで。」

(三) 絲^{いと}よりながきあの川^{かは}端^{はた}の 柳^{やなぎ}の枝^{えだ}の簾^{すだれ}のうちに、

なく鶯^{うぐひす}のその美^{うつく}しさ、 春^{はる}の日^ひ長^{なが}く、いと樂^{たの}しげに。」

鶯

3 3 3 3 | 5 4 3- | 1 1 2 2 | 4 3 2- |

(一) サカ リ ニ ニ ホ フー ヲ ガ ス ム ヤ ド ノー

(二) く し か と み ゆ るー わ が や の か ど のー

(三) イ ト ヨ リ ナ ガ キー ア ノ カ ハ バ ダ ノー

3 3 3 3 | 5 4 3- | 1 1 3 2.3 | 2.1 1- |

ノ キ バ ノ サ メ ノー イ ロ カ チー シ タ ヒー

さ く ら の え だ にー と び う つー リ き てー

ヤ ナ ギ ノ エ ダ ノー ス ダ レ ノー ウ チ ニー

2 2 2 2 | 4 3 2- | 2 5.7 7 6.7 | 6.5 5- |

ナ ク ウ ケ ヒ ス ノー ソ ノー コ エー ノ ヨ サー

な く う ぐ ひ す のー そ のー あ いー ら し さー

ナ ク ウ ケ ヒ ス ノー ソ ノー ウ ツー ク シ サー

3 3 3 3 | 5 4 3 2 | 1 1 3 2.3 | 2.1 1- ||

ケー サ モ ア サ ヒ ノ サ シ イ デー シ ヨ ヲー

けー ふ も ゆ ふ ひ の さ し い リー し ま でー

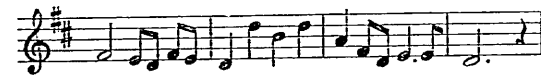
ハ ル ノ ヒ ナー ガ ク イ ト タ ノー シ ゲ ニー

造化のわざ



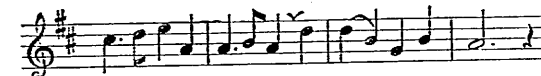
3-2132 | 1 1 6 1 | 5 5 3 1 | 2- 0 |

(一) ヨーペーバー コタフル ヤマビコ ノー
(二) つーいーで たがへぬ はるとあ きー
(三) カーハーノ ナガレモ ウナバラ モー
(四) あーなーおー もしろや あめつち のー



3-2132 | 1 1 6 1 | 5 3 1 2.2 | 1- 0 |

ヒービーキー カタニニ キコユル ハー
かーたーみー にめぐる よろーとひ るー
ムーキーバー ノボリテ クモートナ リー
さーまーはー ももちと かほーれど もー



7. 1 2 5 | 5.6 5 1 | 1 6 1 6 | 5- 0 |

クモニ ミユル ニ ジーノハ シー
みちては かくる つ きーかげ もー
ヒユンバ マタモフ リー クダ ルー
かほらぬ のりほひ とーすぢ のー



3-2132 | 1 1 6 1 | 5 3 1 2.2 | 1- 0 |

ソーターセー ルヒトヤ ダレーナラ ンー
みーなーがー らかみの おきーてな リー
アーメーハー クサキノ ナチーハハ カー
いーとーなー あやつる ぞー かの てー

造化のわざ

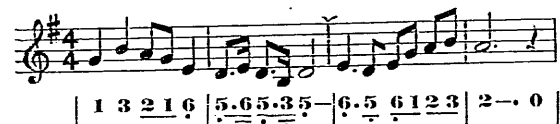
(一) 呼べば答ふる山彦の ひびきか谷に聞ゆるは。

(二) 雲間に見ゆる虹のはし、わたせる人やたれならん。
ついて違へぬ春と秋、かたみに廻る夜と晝、

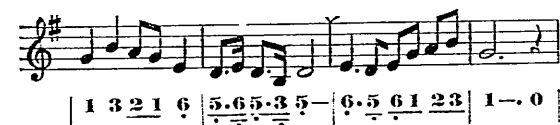
(三) 満ちては缺くる月影も、皆がら神のおきてなり。
河の流れも、海原も、蒸せば昇りて雲となり、

(四) ひゆればまたもふり下る 雨は草木の父母か。
あな、面白や、天地の 様は百千と變れども、
かはらぬ則は、一筋の 絲をあやつる造化の手。

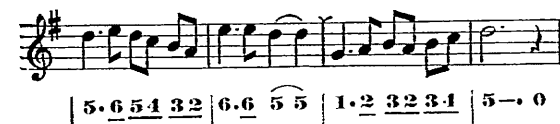
植物の群落



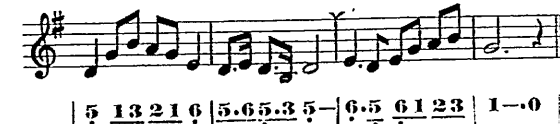
(一) ミツタース ノーペーノ コーカシー コー
(二) よそめーに みーてーはーこ ろーなーきー
(三) ヨメナニ マーヂール ツク ツク シー



シゲルー ク サーキー ノー モリ ハーヤー シー
そのあーつ まーりーにー にたれーどーもー
マツニ マツ ハー ルー ツタカー プー ラー



ハナウー ツー ク シクー ハ ハ アーチャー クー
かーげーもー ひなたも すきすーきー にー
ツプカー ノー ヒ マチャー モトメーツー ツー



コトーリー ハ ウーダー ヒー チョー ハー マー フー
えーらーむーす みーかーにー ほーかなーらーずー
ワ ガー ミー ナー クーゾー オ モ シー ロー キー

植物の群落

(一) 見渡す野邊のこゝかしこ、

茂る草木の森林、

花美しく、葉は青く、

小鳥は歌ひ、蝶は舞ふ。」

(二) よそめに見ては、心なき

その集に似たれども、

蔭も日向もすきずきに、

選ぶ棲處に外ならず。」

(三) 嫁菜にまじる土筆、

松にまつける蔦かつら、

わづかのひまを求めつゝ

わが身を置くぞ面白き。」

(四) 同じ種類の集も 作る、杉山薄原。

互に風を防ぎあふ 力は強し、獨より。」

(五) 野、山海川、それぞれに、 定るおのが宿しめて、

地球の上に榮え行く、 わが植物の一世界。」

(六) 水に水草、岩に苔、 蟲には種を運ばせて、

わたくしならぬ天然の 腕のたくみの豊さよ。」

(第六集)

(第六集)

びらみっど

びらみっど

5. 5 5. 6 | 5. 3 1. 1 | 2. 2 2. 7 | 5 0 |

(一) エ シ プ ト タ イ コ ノ プ ン メ イ ノ
(二) や - ま と み ゆ れ ど び ら み ッ ど
(三) ゲ イ ナ ル イ ッ キー キ ズ ク ニ ハ

5. 7 5. 7 | 2. 2 2. 2 | 3. 3 2. 2 | 5 0 |

ア モ カ ゲ ノ コ ル - ヒ ラ ミ ッ ド
い し も て た た み - き づ き た る
ジュー マン ニン ノー タ ム ミ ナ ク

5. 5 1. 3 | 5. 5 5 | 6. 6 5. 3 | 1 0 |

ナ イ ル ノ キ シ ノ チ チ コ チ ニ
は - す い け い の と - に し て
サン ジュー ネン モ カ カ リ テ ゾ

3. 1 5. 5 | 6. 6 5 | 3. 3 2. 3 | 1 0 ||

ヤ マ カ ト バ カ リ ソ ビ エ タ リ
だ い し - ー オ よ し ち エ っ き
ナ シ ト グ ベ キ ヨ ニ ハ イ フ

びらみっど

五四

びらみつど

- (一) えじぶと太古の文明の面影残るびらみつど、
ないるの岸のをちここに、
山かとばかり聳えたり。」
- (二) 山と見ゆれど、びらみつど、石もて畳み築きたる
方錐形の塔にして、
大小およそ七十基。」
- (三) 大なる一基築くには、十萬人のたゆみなく

三十年もかゝりてぞ、

成しとぐべきと世にはいふ。」

- (四) そもそも、この塔はえじぶとの國王一家の墓にして、
その墓ごとに石柩を

地下のむろにぞをさめたる。」

- (五) 石柩中のなきがらは、三千年後の今もなほ
くづれくされず、そのまゝに、
みーらとなりて、残るとぞ。」

紫式部



3 5 1 7 | 6. 7 5- | 1. 1 3 2 | 5- 0 |

(一) ヨニカグ ハシター カル ハシ キー

(二) わがぶん がくのー はなざくらー

(三) アーイ シヤモノー アキノツ キー



1. 3 5 1 | 7. 6 5 5 | 6. 5 1 3 2 | 1- 0 |

ムラサキ シキアノ フテノーア トー

とつくに までもー にほひつ つー

ヒカリハ チヨニー クモルマ ジー

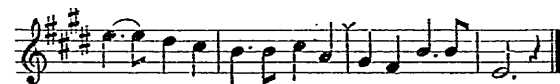


2. 2 3 1 | 1. 3 2 3 | 1. 3 1 6 | 5- 0 |

ヨーミテ タレカハ メテザラ ンー

きーよき みさなと もろとも にー

アフゲヤ キーミノ ガクモン チャー



1. 1 7 6 | 5. 5 6 4 | 3 2 5. 5 | 1- 0 |

シーリテ タレカハ ホメザラ ンー

そのなほ なーがくかなるら ンー

シタヘヤ キーミノ トッコー チャー

紫式部

(第六集)

(一) 世に芳しく美しき紫式部の筆のあと、

讀みてたれかは愛でざらん。知りてたれかはほめざらん。」

(二) わが文學の花ざくら、外つ國までもにほひつゝ、

清き操ともろともにその名は永くかをるらん。」

(三) あゝ、石山の秋の月光は千代に曇るまじ。

仰げや、君の學問を。慕へや、君の德行を。」

華嚴の瀧



| 1. 5̣ 1 2 | 3. 2̣ 1 3 | 5. 6̣ 5 2 | 3- 0 |

(一) キ シュー ノ ナー チ ト モ ロ ト モ ニー
(二) お ち くる みーづ は し ら め の なー



| 5. 6̣ 5 3 | 2. 1̣ 2 3 | 1. 6̣ 6̣ 5̣ | 5- 0 |

ッー ノ ナ シ ラ レ シ ニ ッ コー ノー
そー ら に か け た る こ こ ち し てー



| 5. 5̣ 3 5 | 6. 6̣ 5- | 3. 3̣ 3 2 | 5- 0 |

ケ ゴ ン ノ タ キ ハー ソ ノ タ カ サー
か み な り ひ び きー ゆ き く だ けー



| 5. 5̣ 1 2 | 3. 2̣ 1- | 5 3 2. 3 | 1- 0 |

サン シュー ヨ ショー ア リ ト イ フー
と び ち る あ わ ばー た に に み つー

華嚴の瀧

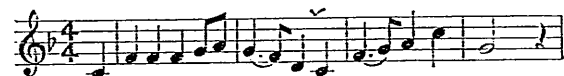
(一) 紀州きしゅうの那智なちと もろともに、

その名な知しられし日光にっこうの
華嚴けごんの瀧たきは、その高たかさ、

(二) 落ちお来る水みづは、白布しらぬのを
三十餘丈さんじゆよじよありといふ。

雷かみなりひびき、雪ゆきくだけ、
飛とび散ちる泡あわは、谷たににみつ。

戦場の月



5 | 1 1 1 2 3 | 2 1 6 5 | 1 2 3 5 | 2- 0 |

(一) ソ ガ フ ル サ トー ニ ミ シー ツ キ ノー
(二) ス す め す め の の シー れ い にー
(三) サ ン ゴ シー ゴー モ ター カ ヒ テー
(四) の も せ に ちー リ し く の の なー



3 | 6 5 5 3 2 | 1 6 5 5 | 1 2 3 2 | 1- 0 |

コ ヨ ヒ バ カー リー ハ タ ダー ナ ラ テー
の こ え や まー こー え た にー こ え てー
ヨ ハ ノ ボー ノー ト シ ラー ム コー
て ら す ざんー げー つう すー く しー



2 | 2 2 3 2 3 4 | 5 6 5 5 | 6- 6 5 | 3- 0 |

テ キ ヤ キー ター ルー ト マ ツー ホ ド ニー
い リ つ みー だー れー つ た たー か へー ばー
テ キ ハ コー ラー へー ズ シー リー ソ ケー パー
と ほー く いー なー なー く まー のー こー 点ー



5 | 1 1 1 2 3 | 2 1 6 6 | 5 3 2 3 | 1- 0 |

ミ ミ チ ツ ラー ヌー ク ラッ パー ノ ガ トー
つ き ば や うー やー く か たー ぶ き めー
カ チ ド キ リー クー ヤ ミー カ タ ノ シー
お くる あ さー がー ぜー こー こー ちー よー しー

戦場の月

(第六集)

(一)

わがふる郷に見し月の、今宵ばかりはただならで、

(二)

敵や来ると待つほどに、耳をたらぬく喇叭の音。

(三)

入りつ、亂れつ、戦へば、月はやうやくかたふきぬ。

(四)

野もせにちりしく物の具を、照す残月淡くして、
遠くいな、く駒の聲、送る朝風こゝちよし。

わがこの身



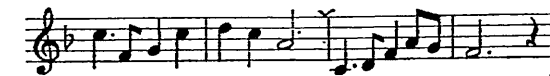
5-1 2 | 3-6 5 3 | 1 5 1 3 2 | 2-5 0 |
 (一) オ-ヤ ノ タマヒ シ リガ-コ ノ ミ-
 (二) き-み に さまげ し わが-この み-



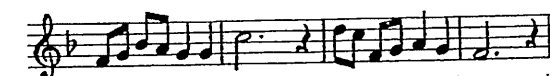
3. 3 1 3 | 2- 2 5 | 6 5 6 5 1 | 3-2 0 |
 カ ミ ヒ ト ス-ザ モ ナホ-チ シ カ-
 ら の ひ と し-づ く げに-たふ と-し



5. 1 6 5 | 1 2 3- | 5. 6 3 2 1 | 2- 0 |
 タ ゲ イ タ ズ ラ ニ- ウ シ ナ ハ- パ-
 そ の み ら な ら で- な が し な- ば-



5. 1 2 5 | 6 5 3- | 5. 6 1 3 2 | 1- 0 |
 フ コ- ノ ツ ミ ハ- ノ ガ レ エ- シ-
 ふ ら- の ゼ め ば- まねかれ- じ-



1 2 4 3 2 2 | 5- 0 | 6 5 1 2 3 2 | 1- 0 ||
 コ-コ-ロ セ ヨ- ヒ-ト-ビト ヨ-
 つ-つ-しめ や- ひ- と-びと よ-

わがこの身

六三

わがこの身

(一) 親の賜ひしわがこの身、髪一筋もなほ惜しかり。

ただいたづらに失はば、
 不孝の罪は逃れ得じ。

(二) 君に捧げしわがこの身、血の一滴に貴し。

その道ならで流しなば、
 不忠の責はまぬかれじ。
 つゝしめや人々よ。」

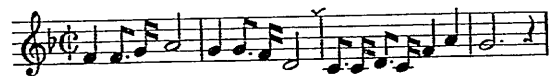
わがこの身

六四

(第六集)

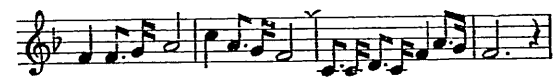
(第六集)

凱 旋



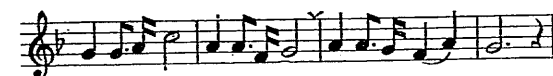
1 1.2 3- | 2 2.1 6- | 5.5 6.5 1 3 | 2-0 |

(一) テッ コー フクシ テーセイギハ カテ リー
(二) かみに はー きみー のー みむねに な ひー
(三) リクニ モー クミニ モー タタカ フゴト ニー
(四) こく みん- むげん のー かんしやにな ひー



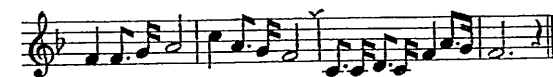
1 1.2 3- | 5 3.2 1- | 5.5 6.5 1 3.2 | 1-0 |

トー ア ノー テンチ ニー クモキリハレー テー
しもに はー たみー のー のぞみを とげー てー
ケー ン コー リヘイ ノー ツヨキモクジー キー
にー んげん しじー のー めいよをおひー てー



2 2.3 5- | 3 3.1 2- | 3 3.2 1 3 | 2-0 |

フタタ ビー ミハタ ノー アサヒ カー ゲー
こく ない かんこ のー こゑの うち にー
セカイ ノー タンビ ノー コエノ ウチ ニー
けふ し もー わがぐん- かへり き た るー



1 1.2 3- | 5 3.2 1- | 5.5 6.5 1 3.2 | 1-0 |

ヘイ リ ノー イロニゾー カガヤキヲター ルー
ちのー じつ- ゆー ぶのー わがぐん かへー るー
ジョー- ジョー ム テ キ ノー リガゲン カへー ルー
めでた きー がい せん- いはひ て うた- へー

凱 旋

(一)

敵國伏して、正義は勝てり。

(二)

ふたゝび御旗の朝日影、

(三)

上には君の御旨にかなひ、

(四)

國內歡呼の聲のうちに、

陸にも、海にも戦ふごとに、

世界の嘆美の聲のうちに、

國民無限の感謝を荷ひ、

今日しもわが軍かへり来る。

東亞の天地に雲霧はれて、

平和の色にぞ輝きわたる。

下には民の望を遂げて、

忠實勇武のわが軍かへる。

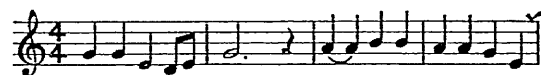
堅甲利兵の強きも挫き、

常勝無敵のわが軍かへる。

人間至上の名譽を負ひて、

めでたき凱旋祝ひて、歌へ。

鏡 な す



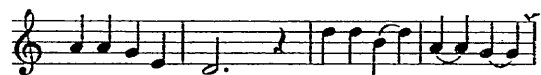
| 5 5 3 2 3 | 5- 0 | 6 6 7 7 | 6 6 5 3 |

(一) カガミナースー ミーズモミドリノ
(二) ふるゆきーにー きこりのみーちも



| 2̣ 2̣ 7 7 | 6- 0 | 7 7 2̣ 2̣ | 3- 5 5 |

カゲウツルー ヤナキノイトノ
うもれけりー みやまのおくの



| 6 6 5 3 | 2- 0 | 2̣ 2̣ 7 2̣ | 6 6 5 5 |

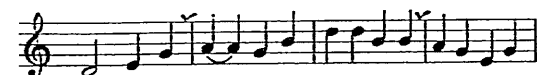
エダサタレー キハレー テーハ
ゆふまぐれー かざせるかきには



| 6- 7 | 2̣ 3̣ 2̣ 7 | 6- 0 | 5- 6 5 3 |

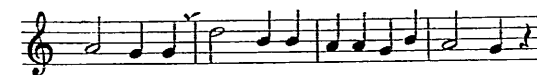
カーセシニリューノー カーミチ
かーげもーなーきー つーきな

鏡 な す (つづき)



| 2- 3 5 | 6 6 5 7 | 2̣ 2̣ 7 7 | 6 5 3 5 |

ケーブリコーホリキエテハナミキュー
やーどしになへるしげにはかーなら



| 6- 5 5 | 2̣- 7 7 | 6 6 5 7 | 6- 5 0 |

ターイノヒーダチアラフトカーヤ
さーるーはーななたなるとかーや



| 2̣ 3̣ 2̣ 7 | 6- 5 6 | 2̣ 2̣ 7 6 | 5- 3 5 |

ダニオモシーロノケシキヤナーダニ
げにおもしーろのけしきやなーげに



| 6 6 5- | 3 2̣ 2̣ 2̣ | 7- 6- | 5- 0 ||

オモシーロノケシキーヤーナー
おもしーろのけしきーやなー

強者強國

(一) キョー シャ ソン シ テ シャー ク シ ホ ロ ビ
 (二) しん たい つ よ く て わ づ ら ひ し ら す
 (三) コ ク ミ ン ア ヒ ヲ シ シ ツ ギョー サ カ エ
 (四) きょー し ゃ そ ん し て じょー く し ゃ ほ る び

キョー コ ク サ カ エ テ シャ ヲ コ ク オ ト ロ フ
 い し ま た つ よ く て も く て き し お ほ す
 へー イ ビ タ ラ ヒ テ コ ク イ カ ガ ヤ ク
 きょー こ く さ か え て じょー こ く お と ろ ふ

テ ー シ ナ ヒ ラ ケ シ ソ ノ ト キ コ ノ カ タ
 コ ー レ ゴ キョー し ゃ ぞ キョー し ゃ ば は だ ー の
 コ ー レ ン キョー コ ク キョー コ ク ハ イ チ ー ノ
 い ー で や ひ と び と きょー し ゃ と な れ ー や

タ ー レ カ イ ヅ コ カ コ ノ リ ニ ハ プ レ シ
 し る き と い き な る カ コ ノ カ ハ の か は
 な ー シ リ て こ の シ ニ カ カ ば る も の か ハ
 な ー な ー な ー

鏡なす

(一) 鏡^{かがみ}なす水^{みづ}も緑^{みどり}のかげうつる。
 柳^{やなぎ}の絲^{いと}の枝^{えだ}をたれ、
 氣^き霽^はれては、風^{かぜ}新^{しん}柳^{りゅう}の髪^{かみ}を梳^けり、
 氷^{こほり}消^きえては、浪^{なみ}舊^{きゅう}苔^{こけ}の髭^{ひげ}を洗^{あら}ふ、
 とかや。げに面白^{おもしろ}の景色^{けしき}やなげに面白^{おもしろ}の景色^{けしき}やな。
 (二) 降^ふる雪^{ゆき}に、樵^{きこり}夫^この道^{みち}も埋^{うも}れけり。
 み山^{やま}の奥^{おく}の夕^{ゆふ}まぐれ、
 かざせる笠^{かさ}には、影^{かげ}もなき月^{つき}を宿^{やど}し、
 になへる柴^{しば}には、香^{かな}らざる花^{はな}を手^て折^なる、
 とかや。げに面白^{おもしろ}の景色^{けしき}やなげに面白^{おもしろ}の景色^{けしき}やな。
 面白^{おもしろ}の景色^{けしき}やな。

強者強國

(一) 強者存して、

弱者滅び、

強國榮えて、

弱國衰ふ。

天地開けし

その時、このかた、

たれか、いづこか この理にはづれし。

(二) 身體強くて、

わづらひ知らず、

意志また強くて、 目的しおほす。

これぞ強者ぞ。 強者ははだの

白きと黄なるに かゝはるものかは。」

(三) 國民あひ和し、

實業榮え、

兵備たらひて、

國威かがやく。

これぞ強國。

強國は位置の

西と東に

かゝはるものかは。」

(四) 強者存して、

弱者滅び、

強國榮えて、

弱國衰ふ。

いでや、人々。

強者となれや。

なりて、この國

強からしめよや。」

教育唱歌全八冊

明治二十九年 一月二日第一集 印刷
 明治二十九年 一月十日第一集 發行
 明治二十九年 五月十五日第二集 印刷
 明治二十九年 五月廿六日第二集 發行
 明治二十九年 八月一日第一集訂正再版發行
 明治二十九年 十二月廿五日第二集訂正再版發行
 明治三十年 十二月十五日第二集訂正三版發行
 明治三十年 十二月廿五日第一集訂正三版發行
 明治三十一年 七月五日第二集訂正四版發行
 明治三十八年 八月十四日修正五版印刷
 明治三十八年 八月十七日修正五版發行

定價各冊金拾五錢

著作權所有★不許拔萃

編纂者 教育音樂講習會

發行所 東京市小石川區小日向水道町七十三番地
 西野 虎吉

印刷所 東京市京橋區築地三丁目十五番地
 野村 宗十郎

發行所 東京市小石川區小日向水道町七十三番地
 東京 開成館
 電話特番町三五五番

發行所 大阪市心齋橋通北久寶寺町角
 大阪 開成館 三木 佐助

發行所 東京市日本橋區通三丁目
 東京 六合館 林 平次郎

